

2021年度環境経営レポート

(対象期間：2021年3月1日～2022年2月28日)



Shimizucho

 **清水長 金属工業株式会社**

Benefit for Future by FACE TECH

作成日： 2022年5月20日

更新日： -

環境経営方針

『省資源を図り、法を遵守し「地域・地球」の環境を守る』

■ 環境理念

長い歴史の中で豊かな四季の移ろいとともに自然と共生する文化を日々の暮らしや生き方の中に取り込み、脈々と受け継いできた山紫水明のまち…ここ京都は、京都議定書誕生の地として世界的に認知される環境先進都市であり、また、人的・文化的資源が融合・集積し、伝統から最先端まで幅広い分野の産業が息づく世界有数のモノづくり都市でもあります。

この京都の地で、わたしたち清水長金属工業株式会社は金属表面処理【めっき】という**環境負荷が大きく公害リスクの高い事業活動を行っているその責任の重大性をよく認識し、「かけがえのない地域・地球の環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくことが、現存する我々の基本的責務である。」**との使命感を持ち、持続可能な社会の実現に貢献し、顧客・社会から認められ求められる企業となる為、全社一丸となって、下記の行動指針に対し積極的に取り組んでまいります。

■ 行動指針

以下の指針に基づきCO₂排出量削減と省資源を図り、法を遵守し『地域・地球』の環境を守ります。

- (1) 環境関連の法令遵守（水質汚濁防止・大気汚染防止・土壌汚染防止など）
環境に関する法律及びその他顧客等の要求事項を遵守し、環境保全・公害防止に努めます。
- (2) CO₂排出量の低減（省エネルギー化・高効率化）の推進
電力・ガス等のエネルギー資源を有効利用しCO₂排出量低減や高効率化に努めます。
- (3) 廃棄物（産業廃棄物・事業系一般廃棄物）の3R化の推進
廃棄物の分別収集を推進し、再資源化など3R活動に積極的に取り組みます。
- (4) 節水活動の推進
工場で使用する水資源の節約や有効利用に積極的に取り組みます。
- (5) 化学物質の適正管理と有効利用の推進
処理液管理方法やめっき工法等を見直す事により化学物質資源の低減に努めます。
- (6) 環境啓発活動の展開
全社員が環境負荷低減を積極的に実践できるように、この環境経営方針を周知するとともに、社外にも公表します。
- (7) 地域活動として社会貢献活動の展開
自社の環境整備にとどまらず、近隣住民・地域への環境配慮に努めます。
- (8) 製品及びサービスに関する環境への配慮
環境に配慮した製品の開発・販売促進および工程プロセスの確立を推進します。
- (9) グリーン購入の推進
環境にやさしいエコ商品の優先購入や購買品の管理を推進します。

制定日 2019年 4月 1日

清水長金属工業株式会社

代表取締役社長

山本 剛史

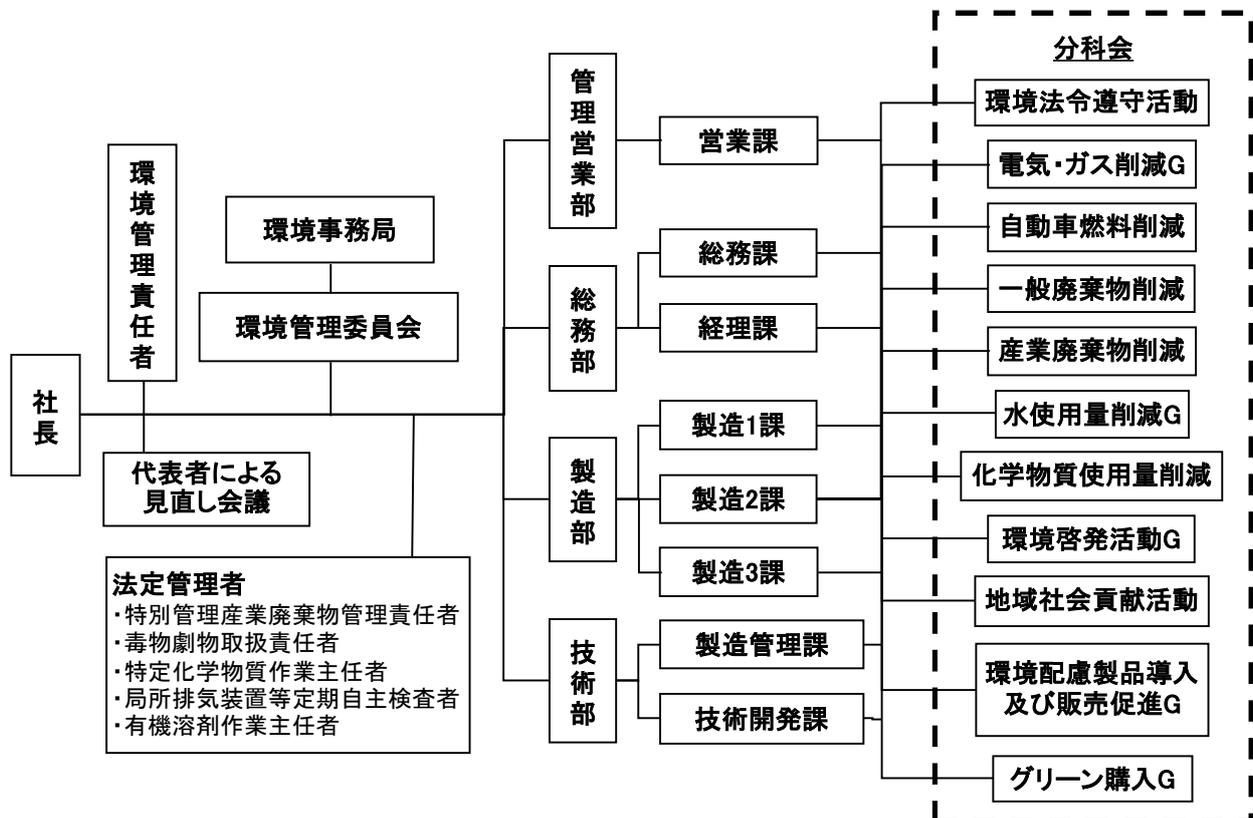
□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
清水長金属工業株式会社
代表取締役社長 山本 剛史
- (2) 所在地
本社・工場:京都市南区西九条高島町31番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 常務取締役 木村 昭則
担当者(環境事務局) 技術部技術開発課 課長 加藤 洋平
TEL:075-681-7331
FAX:075-691-2348
E-mail:c.s.-kaihatu@shimizucho.com
- (4) 事業内容
電気めっき・化学めっき及びショットブラストによる表面処理加工業
主要加工品目
電気めっき(銅・ニッケル・クロム・錫・銀・亜鉛・黒ニッケル・錫-コバルト合金)
化学めっき(ニッケル-リン・ニムテック)
ブラスト (サンドブラスト・液体ホーニング)
- (5) 事業の規模
資本金 1,500万円 床面積 3,641㎡ 従業員数 55名(2021年4月現在、役員・パート含む)
- (6) 事業年度 3月～翌年2月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 清水長金属工業株式会社
活動: 電気めっき・化学めっき及びショットブラストによる表面処理加工業
対象: 全社・全事業

□実施体制



□主な環境負荷の実績

項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	758,247	654,431	632,442	698,399
電力	kg-CO ₂	349,547	303,874	280,016	304,255
灯油	kg-CO ₂	40,562	23,978	23,754	29,133
都市ガス	kg-CO ₂	319,597	284,586	283,257	314,399
ガソリン	kg-CO ₂	5,028	5,596	5,155	6,503
軽油	kg-CO ₂	43,560	42,370	40,260	44,109
廃棄物排出量	kg	96,123	164,253	157,916	161,983
一般廃棄物	kg	3,171	3,312	3,282	3,869
産業廃棄物	kg	92,952	160,941	154,634	158,114
総排水量	m ³	36,562	32,887	32,026	35,040
水使用量	m ³	37,642	34,745	33,253	38,097
化学物質使用量	kg	5,026	3,597	3,035	3,770

* 化学物質使用量はPRTR法第一種指定化学物質の合計使用量

* 電力の二酸化炭素排出係数は2018～2020年度0.334、2021年度0.318とした。(単位kg-CO₂/kWh)

□環境目標及びその実績

項目	年度	基準年度	2021年度		2022年度	2023年度
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
			基準年度比	基準年度比	基準年度比	基準年度比
電力からのCO ₂ 排出量削減 *1	kg-CO ₂	280,016	278,862	304,255	347,597	343,808
		2020年度	99.6%	108.6%	114.2%	113.0%
都市ガスからのCO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	283,257	294,558	314,399	326,973	320,625
		2020年度	103.9%	110.9%	103.9%	102.0%
自動車燃料からのCO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	47,967	47,967	50,612	50,612	50,105
		2020年度	100.0%	105.5%	100.0%	99.0%
ニッケル化合物使用量の削減	kg/百万円	3.569	3.583	3.581	3.581	3.545
		2020年度	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%
シアン化合物使用量の削減	kg/百万円	1.506	1.623	1.478	1.478	1.463
		2020年度	107.7%	98.1%	100.0%	99.0%
脱脂剤使用量の削減	kg/百万円	0.419	0.478	0.370	0.370	0.366
		2020年度	114.0%	88.3%	100.0%	99.0%
一般廃棄物の削減	紙再生比	21.1%	25.0%	25.2%	27.2%	28.0%
		2020年度				
産業廃棄物の削減	kg/百万円	333.2	315.5	260.3	275.4	270.0
		2020年度	94.6%	78.1%	105.8%	103.7%
給水量の削減	m ³	33,253	37,255	38,097	38,616	38,097
		2020年度	112.0%	114.5%	101.3%	100.0%
グリーン購入		—	*2			
環境配慮型めっき製品の開発、販売促進及び工程プロセスの		—	*2			
地域社会貢献活動		—	*2			

*1 電力の二酸化炭素排出係数は2020年度0.334、2021年度0.318、2022と2023年度0.350とした。(単位:kg-CO₂/kWh)

*2 数値目標設定が困難な為、行動目標を設定し活動した。

具体的な目標と実績は「環境活動計画と取組結果及び評価」を参照。

*3 2022年度及び2023年度の目標は2021年度を基準年とした。

□環境活動計画と取組結果及び評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容
電力からのCO₂排出量削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
ピークカット	○	継続	目標再設定値に対し
適切な温度によるクーラーの運転	○	継続	①内製売上:+6.58%②電力量(CO ₂)+9.11④原単位:0.63 達成状況:×
フィルタ類の清掃	○	継続	対前年度比に対し
蓄電システムの検討	×	変更	①内製売上(+30.33%)②電力量(+14.12%)・CO ₂ (+8.66%)③原単位(0.63)と増とはなかったが、日頃からの節電意識の賜物と考えます。
ジェットヒータの見直し	×	変更	原単位は僅かに届かずでした。
チェックシートの作成	△	継続	参考:来期は、4月早々より初夏を感じる陽気で電力高消費月の夏本番に向けて、無理のない節電・換気対策に注意願います。
井水の冷風装置	△	変更	
ガスからのCO₂排出量削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
処理槽・蒸気配管等のメンテナンス	△	継続	目標再設定値に対し
断熱材の補修と新たな処理槽への取り付け	○	継続	①内製売上:+6.58%
ボイラ使用の管理及び標準化	○	継続	②ガス量・CO ₂ 排出量:+6.74% ③原単位:4.07 達成状況:×
蒸気熱風発生機	×	変更	対前年度比に対し
			①内製売上増(+30.33%)②ガス量・CO ₂ (10.99%)③原単位(4.07)と微増とはなかったが、ムダを排する活動が地道に浸透してきた結果と考えます。
自動車燃料からのCO₂排出量削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
無駄走り対策	△	継続	目標再設定値に対し
車両整備、空気圧の確認	○	継続	①内製売上:+6.58%
燃費講習会の開催	×	継続	②燃料・CO ₂ 排出量:+5.51% ③費用:+15.9% 達成状況:×
ノーマイカーデーの開催	×	継続	対前年度比に対し
			①内製売上増(+30.33%)②燃料・CO ₂ (11.44%) 目標達成とはならなかったが、大健闘とみてとれます。実際の活動として、エコドライブ教育・10ヶ条がしつかり行っていたか見えませんでした。前回も述べたようにデータ量はありますが解折と打った手立てがわかり難い(集計値に差異があった)。来期は、運転者講習・エコドライブレコーダ等の貸出調査も願います。
ニッケル化合物使用量の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
めっき液の長寿命化・析出防止	△	継続	目標設定値に対し
ザラツキ誘発物の処理液混入防止対策	○	継続	①内製売上:+6.58% ②Ni化合物使用量:+11.8% ③単位使用量:-0.1%
バルブ操作ミスでの更新防止策	△	継続	達成状況 使用量:×、単位使用量:○
			対前年度比に対し
			使用量の増加は、処理液調整対応+特機ラインの無電解Ni-P液の未使用稼働によるカビ発生が尾を引いた点は痛かった。
シアン化合物使用量の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
不具合による剥離作業の低減	△	継続	目標設定値に対し
剥離履歴の活用	△	継続	①内製売上:+6.58% ②CN化合物使用量:+6.9% ③単位使用量:-8.9%
			達成状況 使用量:×、単位使用量:○
			諦めず使用量削減にトライされたし。
脱脂剤使用量の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
油の持ち込み削減	△	継続	目標設定値に対し
薬剤の適正補給と管理	△	継続	①内製売上:+6.58% ②脱脂剤使用量:-13.0% ③単位使用量:-22.6%
			達成状況 使用量:○、単位使用量:○
			処理液の長寿命化:油脂持込抑制展開→
			①顧客様5社:切削油脂付着削減ご理解とご協力をいただきました。
			②脱脂液浸漬前での蒸気洗浄・ウェス拭取りでの油脂持込抑制の実施。
一般廃棄物の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
可燃物、紙くずの分別状況の定常化	△	継続	目標再設定値に対し
3Rの推進	△	継続	①内製売上:+6.58%
			②可燃物分別による紙くず再生比率 目標値 25.2% 達成状況:○
			対前年度比に対し約4%増となった。一方、分別/パトロール結果についてのアナウンス・周知依頼活動は不十分であった。分別再生を記した帳票等について記録しておくだけでは勿体ない。事業活動で発生した紙くずを梱包に再使用し、再使用できない紙ごみは可燃物ではなく、紙ごみとして再生紙くずとして廃棄することで廃棄物量削減に繋げている意義を大切に展開すること。

取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容
産業廃棄物の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
油分の減少等による廃棄減少	○	継続	目標再設定値に対し
黒革類の減少による酸の長寿命化	△	継続	①内製売上:+6.58%
不良低減	△	継続	②排出量:目標値-7.2% ③原単位:260.3 達成状況:○
歩留まり向上	△	継続	対前年度比に対し
			①内製売上増(+30.33%) ②排出量前年対比+1.8%で実質値としては減とはならなかったが、大健闘とみてとれます。特にNi-P、ニムテック、トライボロン液については非常に早期発見、早期対応(空け替え)できたことは良かった。
給水量の削減			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
シャワーの有効活用	△	変更	①内製売上:+6.58%
水漏れ修理	○	変更	②給水量:+2.26% ③原単位:15.95 達成状況:給水量:×
蛇口の点検	△	変更	原単位:○
使用水量の入力忘れチェック	△	継続	対前年度比に対し
夏季の節水活動	○	継続	①内製売上増(+30.33%) ②給水量(+14.57%) ③原単位(15.95)と微増とはなったが、ムダを排する活動が地道に浸透してきた結果と考えます。
			給水メータなし箇所発見。早急に水量メータを取付対応願います。
グリーン購入			
グリーン購入手順書に基づく物品の購入	△	継続	なかなか成果の残る活動は目立たないが、地道に購入物に対しエコ・環境に優しい部材の調達に努めて頂いていることに敬意を表します。定期的な部材のまとめ買いを行うこと
グリーン購入の啓発活動	×	継続	によって購買先のCO2削減に繋がる活動も大切です。省エネ装置購入補助金(京-VER補助金制度)を活用し、LED・チラー購入の検討を願います。
省エネ設備の調査・導入検討	○	継続	
グリーン購入品一覧リストの見直し	×	継続	
環境配慮型めっき製品の開発、販売促進及び工程プロセスの確立			
数値目標	×	□上方修正 □下方修正 ■基準見直し	
鉛フリー化の検討	×	変更	年間売上:4,767千円 目標達成度:19.9%(-81.1%)
ノーシアン浴で安定した製品の提供	△	変更	達成状況:×
ターン数延長による薬剤使用量の低減	×	変更	①新トライボロン被膜の調査
			②トライボロンⅡの被膜特性
地域社会貢献活動			
週1回の会社周辺の清掃	○	変更	・地域、近隣住民からの苦情0件 達成状況:×・1件 会社
エコキャップ運動	△	変更	正面出入口での近隣住民車両から苦情(車両後退での出は危険)。車両後退での出においては、必ず誘導員をつけ安全
古切手回収活動	×	変更	には十二分に配慮し、本是正を継続すること。
花壇の花の入れ替え、木のせん定	○	継続	営業のカウンターチームは情報取りを継続して下さい。エコ
中央通路の穴埋め	△	変更	アクション活動日時は全社的に一斉活動で推進しましょう。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物、産業廃棄物(廃酸、廃アルカリ、金属くず、廃プラ等)
大気汚染防止法	局所排気装置、排風機
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検
水質汚濁防止法	有害物質使用特定施設の届出及び点検
下水道法	めっき設備、排水処理施設、局所排気装置
騒音規制法・振動規制法	空圧機、送風機
労働安全衛生法	集塵機、局所排気装置、めっき設備の点検、作業環境測定の実施等
消防法	シンナー、灯油の保管、消防活動阻害物質の届出
毒劇法	毒劇物の管理
PRTR法	特定化学物質の排出量及び移動量の届出
化審法	第一種特定化学物質使用の禁止

尚、関連当局からの違反指摘及び訴訟等は過去5年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

前述の通り、昨年度に続きコロナ禍の中で始まった21年度でしたが、下半期から急激に受注が回復し繁忙になったにもかかわらず、少数精鋭で効率よく仕事が回せたことや、大きなトラブルなどによるロスも最小限に留めてくれたことにより、大変すばらしい業績を残すことができました。これもひとえにEA21活動による経費節減が奏功したものと実感しています。大変な苦勞もあったことと思いますが、ありがとうございました！

活動の中身についても各分科会ますますレベルが向上し、まちがいない「管理技術」の向上に繋がっているものと確信しております。そしてそれは本業である「めっき」以外の事業運営を行う上で必要なすべての事業活動に及ぶ「経営」にまで大きな影響を与える重要な要素になっています。

これぞまさに「環境経営」として「Win-Win」ならぬ「Eco-Eco(エコロジー+エコノミー)」な活動になってきていると大変喜ばしく感じています。今年度の活動、本当にお疲れ様でした。皆様に感謝申し上げます。

次年度はさらに以下の方針を再認識・強化してゆきたいです。

- ・今年度、近隣住民の方から苦情が1件ありました。「こども110番」を通じた防犯、またさらに会社前の市道や交差点における事故防止などに積極的に取り組み地域の安全安心に貢献して挽回してゆきます。
- ・今年度、顧客様とともに取り組んだサプライチェーンCO2削減事業など機会があれば次年度も積極的に取り組み企業の社会的責任(CSR)を推進してゆきます。そしてその延長線で地球規模で取り組むSDGsへの取組みに進化してゆきます。
- ・引き続き緊急事態を想定した防災への取り組みをこのEA21とBCPとの相乗効果で積極的かつ早急に推進してゆきます。

「働く社員を守る災害に強い会社」「顧客・地域社会から信頼される清水長」を目指し、次年度も頑張っていきましょう！よろしくお願いたします！

□環境活動の紹介



クーリングタワーの放熱フィンにミストシャワーの配管を取り付けて節電効果

ペットボトルキャップ受領書

清水長工業 株式会社 様
2021年12月28日

株式会社カンパ 〒612-8486
京都市伏見区別当原古川町233番地
TEL: 075-933-6200
FAX: 075-934-5401

受領枚数	重量	回収CO2	CO2
12/28	19kg	8,170値	

ご提供いただいたペットボトルキャップは再生プラスチック原料として換金し、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに寄付され、全国で病気の子どもとその家族が利用できる滞在施設の建設及び運営費に充てられます。

ご協力ありがとうございます。皆様の御厚意を大切に致します。

詳しくは、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのホームページをご覧ください。
⇒ <http://www.dnho.or.jp/>

皆様の受領額数はご希望により当社ホームページに掲載させていただきます。
⇒ <http://www.camco.co.jp/support/reliance.html>

ペットボトルのキャップを集めて



公道沿いにある会社花壇の緑化活動